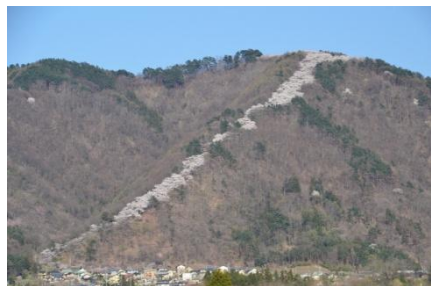




「光城山1000人SAKURAプロジェクト」では、 老木化が進む桜の補植を行っています。



「光城山1000人SAKURAプロジェクト」は、老木化が進む光城山の桜の補植を進めるとともに、光城山の歴史・文化の伝承や自然環境の保全活動を、市民が主体となって、市との協働により行っている団体名です。このプロジェクトは、「昇り竜」として親しまれている光城山の桜を後世に残していくため、平成26年に設立しました。平成26年には約60本の試験植栽を実施し、昨年(平成27年)には、多くの市民とともに300本の桜を植栽しました。今後も継続して、桜の植栽を進めていきます。(平成28年は60本を予定しています。)

※この事業は長野県地域発元気づくり支援金を活用しています。



次世代につなげたい光城山の桜

光城山の桜は、今から100年以上前に大正天皇の即位を記念して、地元の青年たちの手で植樹されたのが始まりです。その後、地元住民やNPO等の手で植樹され、現在では約1,500本の桜が、多くの人の目を喜ばせてくれています。

しかし、光城山の桜「ソメイヨシノ」の寿命は、60~70年と言われているため、現在の桜はかなりの老木となってきました。

桜の開花時期には、麓から山頂まで登山道沿いを徐々に開花していくことから、地元では「昇り竜」に例えられ、親しまれてきました。この桜を次世代につなげていくためにそれぞれができることは何か、考えてみませんか。



あの真田家ともつながりが…!?

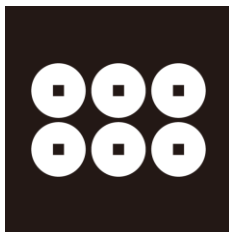
プロジェクトでは、地域の歴史・文化についても、研究を重ねています。

名前の由来になっている光城は、鎌倉時代にこの地に移り住んだ海野氏の一族、光氏が、戦国時代に築いたと考えられる大規模な山城です。

この海野氏、諸説あるものの、真田幸隆、昌幸、幸村で有名な真田氏の本家筋とされています。

大変興味深い話ですね。

今後も、歴史や文化に関わる内容を掲載していきます。



登山道の途中や山頂付近の緑の囲いは、鹿による食害から桜を守るための柵です。本プロジェクトでは、多くの市民の皆さんにより桜を植栽していきます。桜の生育を皆さんで見守りましょう。



お願いします



市制施行10周年を迎える平成27年には、光城山山頂付近に300本の桜の植栽を計画し、地元の保育園、小学生や、多くの市民から桜の植樹参加者を公募しました。当日は、約480名の市民にご参加をいただき、桜の植樹をしました。植樹前には、この年に市

と同じ10歳を迎える小学生2名と共に記念植樹を行いました。また、参加したお子さん達には、「10年後のわたしへ」と題した手紙を書いてもらい、タイムカプセルに入れて埋設しました。参加者からは、「桜が咲くのが今から楽しみ」という声も聞かれました。



平成27年11月末には、市制施行10周年を記念して、約480名の市民と共に、300本の桜を植栽しました!

市民の身近な里山を、これからも市民みんなの手で永く守り育てていただけることを期待しています。